

# 学 習 案 内

この「学習案内」は、各科目の教育目標を正しく理解した上で各自の学習計画を立てられるように、東京女子大学の教育方針を各科目区分に即して説明するものです。まず入学時に注意深く読み、その後も随時必要に応じて参照してください。また、『履修の手引』に掲載されている「履修規程」、「教育課程」等をよく読んでおくことも大切です。

## リベラルアーツ教育

東京女子大学は、創立以来「キリスト教を基盤としたリベラルアーツ教育」を教育の根幹としています。東京女子大学では、リベラルアーツ教育を、本来人間に備わっている洞察力、思考力、判断力、行動力を更に伸ばさせ、全人的成長のための基礎を築くことと捉えています。単なる知識や技能を身につけることだけではなく、その知識や技能を活かして、現代社会の多様な課題を主体的に解決できる、広い識見と創造性を有した「専門性をもつ教養人」として育成することを目標としています。その教育目標を実現するために、東京女子大学の教育課程は、次のようなことを意図して組み立てられています。

- 全学共通カリキュラムでは、専門領域を超えた学習により、幅広い視野と深い識見を養い、現代の諸問題に向き合う判断力を身につけるとともに、コミュニケーションスキル、情報リテラシ、問題解決能力等、本学での勉学を完成する上で必要とされる基礎学力・学習方法を習得する。
- 学科科目では、所属学科の学問的方法を体系的かつ順次的に学ぶことを通して、目先の変化に惑わされず、情報の洪水にも流されない、本質を見抜く洞察力と判断力を身につける。
- 少人数の参加型授業を通して、知識や方法論を積み上げながら論理的思考力、主体的な課題探求力や問題解決力を育成する。
- 他学科履修、副専攻などの学科横断型の学びを通して、所属学科以外の学問領域への関心を広げ、学際的視点を養う。
- アクティブ・ラーニングによる初年次教育を通して、本学における学修の基盤となる基礎学力及び学習方法を習得し、主体的な学びの姿勢を養う。
- 女性の自己確立とキャリア探求の基礎をつくる。
- 学士課程の集大成として卒業研究(卒業論文、Final Presentation 及び講究)に取り組むことを通して、それまでに獲得した知識やスキルを有機的に統合し、自らの課題に取り組み、問題解決につなげていく能力や姿勢を育成する。

## 学習計画について

学習計画を立てるにあたっては、本学の教育方針と法規(「大学設置基準」)の定めるところにより、教育課程(履修年次の指定、必修条件、科目区分ごとの履修単位数など)に従って、授業科目を系統的に履修し、卒業に必要な単位数を満たしてゆくようにしなければなりません。特に、履修年次の指定のある必修科目は、その年次に単位を修得しないと、翌年の履修計画が難しくなる場合があるので注意を要します。4月に行われる学科・専攻ガイダンスやアドバイザーの助言を積極的に活用し、4年間に何を学ぶかを十分に考えた上で、各年次の履修計画を立て、自分の学習計画を作ってゆきます。各授業の概要を紹介する「シラバス」はWeb上で閲覧可能です。

## 単位修得について

大学が学生に単位を与えるには、大学設置基準第 21 条の公的な定めによらなければなりません。大学設置基準第 21 条では「1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成する」ことが標準とされており、2 単位の授業科目の場合、90 時間の学習が必要です。本学では、例えば、講義科目及びほとんどの演習科目において半期で 2 単位を与えていますが、その前提として、30 時間の教室内学習（1 日 2 時間×15 週）と 60 時間の教室外学習を学生に求めています。授業時間数の 2 倍にあたる教室外学習が必要となりますので、このことを心にとめて学習することが大切です。1 年間に登録できる単位数に 40 単位という上限を設けているのも、以上の趣旨による教育効果を考えているからです。また、学生が単位を修得するには、①学年始めに履修科目登録を行い、②確実に履修し、③単位認定のための試験を受け C 以上の成績評価を受けなければなりません。

1 年次の必修科目及び 4 年次への進級条件科目を中心に、いくつかの資格課程科目にもシラバスの成績評価基準を補完するものとしてルーブリックを作成しています。ルーブリックは、各科目に求められる達成目標をどの程度達成できているかを確認するためのものです。ルーブリックを利用して、自分の学修状況を振り返り、自身の学修に足りない点を確認し、各自の学修を深めてください。

なお、ルーブリックは CampusSquare（「その他」→「ダウンロードセンター」）から閲覧することができます。

## GPA（Grade Point Average：成績平均点数）制度

大学はよい教育を行う義務を学生に対して負うとともに、一定水準以上の卒業生を送り出す社会的責任を負っています。そのため厳格な成績評価が求められており、東京女子大学では、学業成績を測る基準として、GPA 制度を採用しています。S・A・B・C・F の 5 段階の成績評価で、S4.0、A3.0、B2.0、C1.0、F0 として成績平均点を計算します（X（評価不能）は 0）。GPA は不合格科目（F または X）の評価とともに成績証明書に記載します。アドバイザーが助言する際の参考資料とするほか、就職や海外留学の際に求められることもあります。また、GPA3.0 以上の学生は、翌年度に履修登録単位数の上限（40 単位）を超えて履修登録することが可能となります。

## 授業科目区分等

授業科目は、全学生が共通に学ぶ「全学共通カリキュラム」と「学科科目」とに区分されます。「全学共通カリキュラム」は、「リベラル・スタディーズ」、「グローバル・シティズンシップ・スタディーズ」、「AI・データサイエンス・スタディーズ」の 3 つの科目群からなり、「リベラル・スタディーズ」には「知のかけはし科目」、「女性の生きる力科目」、「キリスト教科目」を、「グローバル・シティズンシップ・スタディーズ科目」には「Global Citizenship Program 科目」、「第一外国語科目」、「第二外国語科目」、「ギリシア語・ラテン語科目」を、「AI・データサイエンス・スタディーズ」には「AI・データサイエンス科目」をそれぞれ設置しています。

学生各自の関心や学習計画により、履修科目を構成するのが「自由選択科目」です。「全学共通カリキュラム」や「学科科目」を卒業に必要な最低単位数を超えて修得した場合や他学科の「学科科目」の単位を修得した場合には、「自由選択科目」の単位となります。学外学修（語学研修や他大学との単位互換等）により単位が認定された場合も「自由選択科目」として数えられます。

その他、資格取得のために「教職課程科目」、「学芸員課程科目」があります。

## 他学科及び自学科内の他専攻の科目の履修

学科・専攻ガイダンスやアドバイザーの助言のもと、学生が関心ある科目を幅広く履修し、自分の専攻以外の学問領域への関心を広げ、学際的視点を養えるようにするため、他学科及び自学科内の他専攻の科目を履修できるようにしています（一部除外科目あり）。

## 副専攻制度

自分の所属学科・専攻以外の学問領域や専攻に隣接する学問領域についての関心を深め、学際的な視点を養うことを目標として、①キリスト教学、②女性学・ジェンダー、③比較文化の3つの領域の副専攻を設置しています。「全学共通カリキュラム」と「学科科目」から、一つのまとまりを持った学問領域として体系的・横断的にカリキュラムを編成し、履修者が主体的に学ぶ機会を提供しています。修了者には、卒業時に「副専攻修了証」を交付します。

副専攻を履修するには、所定の登録が必要です。履修の手引の「副専攻」を熟読してください。

## AI・データサイエンス教育についての認定制度

どちらの制度も文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（MDASH）」モデルカリキュラムに準拠した内容となっています。自分に合った学び方や関心のある科目に応じて、認定制度を選択してください。認定を受けるには予め所定の登録が必要です。履修の手引きの「AI・データサイエンス教育プログラム」を熟読してください。

### ・「東京女子大学 AI・データサイエンス教育プログラム」

数理・データサイエンス・AI に関する知識及び技術について体系的に学ぶ学生を、リテラシレベル、応用基礎レベル、専門応用レベル、エキスパートレベルの4段階で認定する制度です。リテラシレベル、応用基礎レベルについては文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（MDASH）」モデルカリキュラムに準拠しています。専門応用レベルは AI・データサイエンスの学びを専門の学びに関連付けて学ぶことのできた学生を、エキスパートレベルは学部の集大成である卒業論文・卒業研究において役立てることのできた学生を認定する本学独自の制度です。いずれのレベルにおいても、学修内容を証明するオープンバッジ（デジタル証明書）を発行します。

### ・「早稲田大学データ科学認定」

早稲田大学データ科学センター「データ科学教育プログラム」のカリキュラムを使用した「早稲田大学連携科目」を履修し、規定の単位を修得した場合は、所定の手続きを行うことにより、早稲田大学データ科学センターより修了証の発行を受けることができます。オンデマンドプログラムのため、時間や場所を選ばず自分のペースで学ぶことが可能です。

## 教職課程・学芸員課程

教育職員免許状を取得するための教職課程\*、博物館の学芸員資格取得のための学芸員課程を設置しています。教職課程または学芸員課程を履修するには、所定の課程登録及び履修登録の他、手続及び説明会への参加が必要です。また、所定の課程履修費を納入する必要があります。

履修の手引の「教育職員の資格取得」及び「学芸員の資格取得」を熟読してください。

\*国際社会学科コミュニティ構想専攻、心理・コミュニケーション学科を除く

## 公認心理師課程

心理・コミュニケーション学科心理学専攻の学生を対象\*に公認心理師課程を設置し、「公認心理師」試験の受験資格取得に必要な科目を開講しています。公認心理師課程を履修するには、課程登録の手続き及び所定の課程履修費を納入する必要があります。

履修の手引の「公認心理師課程」を熟読してください。\*心理学専攻以外の学生は課程登録できません。

## 日本語教員養成課程

日本語教員を目指す学生のために「日本語教員養成課程」を設置しています。鋭い言語感覚、豊かな国際感覚と人間性、言語に関する知識や能力を身につけ、バランスのとれた日本語支援を行う人材、さらには異文化間コミュニケーションを促進し、多文化共生を媒介する役割をも担える人材の育成を目標とし、心理・コミュニケーション学科（コミュニケーション専攻）の学科科目を土台に、幅広い分野からカリキュラムを編成しています。

現在、日本語教員には法に基づく免許制度はありませんが、修了者には、卒業時に「日本語教員養成課程修了証」を交付します。

所定の課程登録が必要です。履修の手引の「日本語教員養成課程」を熟読してください。

## Global Citizenship Program (GCP)

高度な英語運用能力を備えた学生が、グローバルな視点から、日常や学問分野に関する興味や疑問について調査を行い、多様な価値観や考え方を知ること、そして積極的に国内外の人と意見を交わし、海外を通じて異文化を体験することを奨励するプログラムです。地球市民としての視点から共に考え、将来の社会経済文化活動の場において能力を発揮し、貢献する人物を育成することを目的としてカリキュラムが組まれています。選抜を経て GCP 生となった学生は、2 年次からの 3 年間で、GCP 登録者限定の科目を履修します。2 年次後期から 3 年次前期の 1 年間は、英語圏の協定校に留学をし、自身の学科の専門に関連する科目を中心に履修します。

GCP 科目の単位修得の他、英語の外部試験 (TOEIC または IELTS) で所定のスコアを獲得すること、所定の GPA を達成することによって修了を認定します。

プログラム登録とプログラム履修費の納入が必要です。履修の手引きの「Global Citizenship Program (GCP)」を熟読してください。

## 特徴ある授業科目

本学が開講している授業科目のうち、特徴ある授業科目について以下の区分に分類し、シラバス等に記載しています。履修科目選択に活用してください。

アクティブ・ラーニング科目 (A 科目) : アクティブ・ラーニングの教育方法を取り入れた科目

ブリッジ科目 (B 科目) : 学際的な学びを進めるための科目 (共有授業)

キャリア科目 (C 科目) : 女性のキャリア構築の視点を取り入れた科目

AI・データサイエンス科目 (D 科目) : AI・データサイエンスの教育内容・方法を取り入れた科目

英語力養成科目 (E 科目) : 英語による開講の科目 (授業の全てまたは一部を英語で行う)

文理融合科目 (F 科目) : 人文・社会科学系の学問と自然科学系の知見を組み合わせた文理融合的な科目

グローバル科目 (G 科目) : 国際的視野を取り入れた科目

**2024年度以降入学者対象**

女性学・ジェンダー科目（W科目）：女性学やジェンダー論、男女共同参画、またはそれらの視点で行っている授業科目